

定例教育委員会会議録

(令和2年12月11日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会

日 時 令和2年12月11日（金）
9時30分～

場 所 市役所6階 605会議室
署名委員 小平委員、草間職務代理者

【 次 第 】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 学力向上の取り組みについて【資料No.1】 (教育総務課)
2. 市立岡谷美術考古館条例施行規則の一部改正について【資料No.2】 (生涯学習課)

○ 報 告

1. 新型コロナウイルスの対応について【別添 新型コロナ関連資料】 (教育総務課)
2. 令和3年岡谷市成人式について【資料No.3】 (生涯学習課)

○ そ の 他

- ・行事等について（各課）
- ・その他

【次回開催予定】 1月8日（金）定例教育委員会 15時00分～ 6階 605会議室

出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

事務局（説明員）

教育部長 城田 守、教育総務課長 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 竹内 良之、
生涯学習課長 山田 勝由紀、スポーツ振興課長 小河原 義友、神明小学校 校長 沓掛 隆、
岡谷北部中学校 校長 櫻井 孝、学力向上アドバイザー 花岡 ひさ江、教育総務課統括主幹 小口 明彦、
教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、美術考古館主幹 八幡 正剛、教育総務課主査 芳沢 幸祐

<会議録>

○開 会

岩本教育長： 改めましておはようございます。師走の大変ご多用の中、お集まりをいただきありがとうございます。師走に入ってから暖かい日が続いて、今日もとても暖かいですが、来週からは、いよいよ本格的な冬将軍が到来し、寒くなる予報も出されているわけですが、新型コロナウイルスの関係も一段と厳しい状況になってきております。本当に年末の大変な時期を迎えているわけですがけれども、一人一人、心にしっかりと灯を灯して、お互い思いやりを持って、良い今年の締めくくりをしたいものだなと思っていますところでございます。

それでは、12月の定例教育委員会を始めさせていただきます。今日の議事録署名委員ですが、小平委員さんと草間職務代理者さんをお願いいたします。

最初に私から教育長報告をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○教育長報告

1. 岡谷子ども未来塾について

令和2年度の岡谷子ども未来塾では、市内全4中学校で苦手教科の解消と勉強の習慣づけのため、中学2年生を対象に、教員OBや地域住民が講師となり、パソコン教室の学習支援ソフトを活用して、英語と数学の学習サポートを行いました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ、1学期及び夏休み中の講座を中止し、2学期より感染予防対策に配慮しながら講座を実施しました。8月26日から11月25日までの期間、申込受講生44人、学習支援員14人によりまして、各校で英語3回、数学3回の計6回、延べ91人が参加をしたものでございます。

また、小中学校臨時休校によります学習の遅れに対応するため、各小中学校で小学校6年生・中学校3年生の希望者を対象に、岡谷子ども未来塾拡大版として学習支援補習授業を2学期から各小中学校で教職員が主体となって、実施しております。

内容は、小学校は算数について、単元の要点確認やあるいは例題への取り組み、学習支援ソフトも活用しております。中学校では、英語を各校の実情に合わせて実施してきております。小学校6年生が200名、中学校3年生が150名の計350名の児童生徒が、今月まで補習に取り組んでおります。

2. いじめ根絶子ども会議について

去る11月27日に、いじめ根絶子ども会議が市役所9階大会議室で開催されました。新型コロナウイルスの影響で、開催時期・内容も昨年度と異なり、また例年であれば、教育委員さんにも参観していただいておりますが、今年度は参加者も限定して開催したところであります。

会議では、いじめをなくすために中学校区ごとに、小学生・中学生がともに話し合い、それを参考に各学校で取り組んだ内容と中学校区ごとのメッセージを発表してもらいました。子どもたちは、今回の会議の内容を各学校内で発信し、今後の取り組みに活かしていくこととなります。

3. SOSの出し方に関する教育について

「SOSの出し方に関する教育」の授業を小学校6年生、中学校1年生を対象に、夏休み明けの8月から12月で実施しました。スクールソーシャルワーカーが講師となり、誰にでも悩みがあること、悩みを周囲に相談することの大切さ、友達から悩みを打ち明けられたら、どうするかなどを伝えております。

また、子どもたちへの授業のほか、教職員を対象にした研修も実施したところであります。子どもたちが

普段から気軽に周囲に相談し、一人で悩みを抱え込むことないように、学校でも相談しやすい体制を整え、養護の先生、心の教室相談員の先生、あるいはスクールカウンセラーなどが連携して、子どもたちの小さなサインも見逃さないよう見守ってまいりたいなと思っていますところでございます。

4. 世界の昆虫展について

お手元にチラシをお配りしてありますが、12月1日から美術考古館の1階で「世界の昆虫展」を開催しております。

当初は10月末から、1階交流ひろばで、美術団体の展示が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、また、年末まで会場の利用が見込まれないことから、「今、何かできることはないか。」と職員全員で知恵を出し合い、企画を考えたところであります。「コロナ禍において、家庭で過ごす時間の増えた子どもたちが、美術考古館を訪れ、世界の昆虫に触れることで、ストレスを解消してもらいたい。昆虫に興味や関心を持ってもらいたい。」また、「家族と一緒に楽しく過ごすための、時間と場所を提供したい。」との思いから、この昆虫展を企画したところでございます。

市内の個人所有のコレクションである珍しい昆虫や蝶など、合計35箱におよぶ貴重な標本をお借りすることができ、この企画展が実現をしたところであります。委員の皆さんもこの機会に是非、美術考古館へ足を運んでいただいて、御覧をいただければと思っております。

ちなみに私も昨日、見て参りました。本当に素晴らしい昆虫が展示されておりまして、これを子供が見れば大興奮で、興味関心を持つのではないかなと思ったところであります。是非、またご覧をいただけたらと思います。

教育長報告は以上でございますが、ご質問、ご意見がございましたらお願いをいたします。

○議 題

1. 学力向上の取り組みについて (教育総務課)

岩本教育長： 議題1について、事務局より説明をお願いします。

今日は、全国学力・学習状況調査の結果等を中心に、市内小中学校の沓掛校長先生と櫻井校長先生においでいただき、さらに学力向上アドバイザーの花岡先生にもおいでをいただいております。現場での様子を教えていただきながら、学力向上に向けて、小中学校がどんな点を頑張っているのか。そんな点を、共有できたらありがたいなと思っております。それでは最初に、竹内主任指導主事から、今年度の全国学力・学習状況調査の岡谷の状況について、報告をしていただきます。よろしくをお願いします。

<事務局(竹内)、沓掛校長及び櫻井校長から学力向上の取り組みについて説明。>

事務局(竹内)：今年度の全国学力・学習状況調査の内容については、9月の定例教育委員会の中でご覧いただいたわけですが、本年度は4月16日に実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の状況等を考慮して中止となりました。使用する予定であった問題冊子は、各自治体や学校の判断で有効に活用して欲しいという国の内容を受け、岡谷市では校長会及び学力向上推進委員会において、活用の仕方を検討し、この学力・学習状況調査の設問、各問題は、児童生徒が身につけた知識、技能を活用しながら執行、判断、表現していく過程を確かめていくことができる内容であること。また、児童・生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等にとっても役立てることができるということで、本市では、学力向上に向けた取り組みの一つとして、対象学年の児童生徒が問題冊子に取り組みました。小学校は6年生、中学校は3年生が対象となります。調査内容は、国語、それから算数・数学となります。それともう一つ、毎年のことですが、質問用紙というものがございます。それでは分析をご覧ください。全国や県との比較は、今年ではできませんが、10月27日に県教育委員会からお越しいただきまして、このデータを学力向上委員会の委員長の沓掛校長先生の方から県に送っていただいて、県で分析をしていただきました。その内容を中心に資料に記載しております。教科に関する内容で、上から2個目の菱形の中学校の国語ですが、情報を整理し、内容を捉える力が向上してきたということで、どちらかという今まで小学校より中学校の方に課題があったわけですが、それが改善されてきたうちのの一つとして記してあります。一番上の菱形をご覧ください、これは、これからの大きな課題の部分ですが、複数の資料から必要な内容

を取り出して、というような問題が、以前も見えていたと思いますが増えております。そうやって複数の資料の中から、何が必要かということを選択しておくというところは、小学校、ここに書いてありますが、小中学校ともに国語の大きな課題となっています。単元的に言いますと算数・数学では、小学校は割合、中学校は一次関数に課題が見られます。割合・関数ともに、計算問題的な部分で出されると子供たちは割とできるのですが、生活場面を想起したような文章問題になると、正答率が落ちてくるということで、やはり読解しながら問題を解くというところが、一つ大きな課題になってくるのかと思います。

質問紙に移ります。家庭学習についてですが、子供たちは課された宿題をやるということは、非常に高い割合で答えています。家庭において自分で計画を立てて勉強するというところになるとやポイントが落ちてきます。小学校は約65%ですが、中学校では半分になってしまいます。自己調整力を高めるために、与えられたというより主体的な学習、家庭学習が一つ大事になってきます。あと、スマートフォン・携帯・メディア、そういったものをみんな持つようになって、当たり前前の時代になっていますので、それらを正しく使っていると答える反面、それらの機器を勉強のために使っていると答えた子供たちは、非常に少ないです。その部分がまた一つ、これからGIGAスクールで利用していく部分となります。一番下の部分ですけれども、小中学校ともに、「友達と話し合う、受けとめ自分の考えを持つことができる。」、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるように工夫してノートに書いて理解するようにしている。」等々の肯定数値が高くなっていますので、こういった伸ばす部分は、今後、ますます伸ばしていくものであります。今後の取り組みとしまして、「学校では」という部分と、「家庭では」という部分の作りであります。1枚目の資料は、教育委員会として保護者に通知したもので、「学校では」という部分は、複数の情報から必要な内容を選び、活用すること。先ほど申した通り、日常生活の事象と関連させて、計算問題として取り組むのではなく、日常生活の事象と関連させて問題を捉えて、それは友人の対話の中や、家庭学習等の自分自身を俯瞰した振り返り、そういったところから、また、さらに強い定着に繋がっていくということ。こういうことを学校で頑張って取り組んでいきます。家庭の部分ですけれども、家庭学習に取り組む時間自体は増えている。そして、ドリル学習が今までは家庭学習の中心だったわけですが、それが駄目と言っているわけではなくて、それだけではなくて、授業で残った疑問や問について調べたりすること。あるいは、自分で計画して行うような、そんな家庭学習をする子供たちが増えてきていますので、そういう部分を家庭で協力してやってくださいという、そういう作りになっております。これらの1枚目を受けて、資料2枚目以降ですけれども、各学校で12月の初めに保護者宛に配っていただいておりますので、この後、校長先生方からご説明していただきます。

- 岩本教育長： ここでちょっと切りますが、何かお聴きになりたい点がありましたら、よろしくをお願いします。
- 草間職務代理者： 質問紙調査の一番上の菱形なのですが、学校で「家で自分で計画を立てて勉強する。」というところで小学校が65%、中学校が50%ということですが、普通に考えると中学校の子供さんの方が、将来の人生設計とかある程度固まってくると自分で計画を立ててやろうということで、小学校より高いのかなと思うのですが、逆の結果になっているのですが、これは岡谷だけなのか、それとも全国的に、このように小学校と中学校の子供たちの肯定数値というのはこのぐらいなのか、その辺がちょっと疑問に思いましたのでお伺いします。
- 事務局(竹内)： この部分の全国の割合を、私の方で把握していませんので、全国と比較することができなくて申し訳ありませんが、小学校は「家で自分で計画を立てて勉強する。」というのは、上がってきている部分だと思います。例えば、岡谷田中小学校でのワンプレートホームワークというのは、A4の紙の中に、国語、算数、社会、自分で選んで、学習するというような学習の広がりがある部分を、他の学校でも参考にしながら、自主的な取り組みが出てきております。中学校は、やはり定番の宿題の白文帳とか、書き取りとかそういったものの形が今までありましたので、そういうところで、ただもう機械的に繰り返しているという宿題は、違うのではないかとこの数年、岡谷の中学校の先生たちの間ではされていて、今、その部分をすごく改善しているところですので、改善途中の数値として認識していますが、また後で中学校の校長先生から聞いていただければと思います。
- 岩本教育長： 花岡先生からも何かあればお願いします。

事務局(花岡)： 私もまさに、竹内先生のおっしゃる通りかと思います。

太田委員： 基本的な部分の確認ですが、今回、全国や他の自治体との比較ができないということだったので、今回の竹内先生からお話のあった向上しているなどの比較というのは、岡谷市の子供たちの前回調査との比較ということによろしいですか。

事務局(竹内)： はい。そうです。

太田委員： わかりました。そうした時にこれはそういう比較の中で、向上してきたとか、あるいは、ちょっとここが前よりも下がったというのは大事な比較だと思うのですが、対象が毎回毎回、別のお子さんたちということになるので、同じ子供たちが、前はこうだったけれども今回はこうなりましたという直接的な比較ではなくて、学年が違う、対象が異なる子供たちとの比較に、結果的にになってしまうということだと思うのですが、その辺はどのように捉えたらよろしいのでしょうか。

事務局(竹内)： これは県教委の方で持ってきていただいた内容ですけれども、中学3年生ですと、この子供たちの小学6年生の時の内容と比較します。そうやって、この子供たち自身の小学6年生の結果を当てて、もちろん発達が変わっていますので、直接的な比較にはならないですけれども、ある程度、多角的に比較しています。

太田委員： わかりました。ありがとうございます。

岩本教育長： 他にはよろしいでしょうか。このことは、また具体的なお話の中と絡めて、またお聞きいただいても結構かなと思います。この後は、各学校で学力向上ということで取り組んでいただいている内容を資料にいただきました。小学校全体の様子、あるいは神明小学校の様子、学力向上にこんなところを一生懸命やっている、こんなところに課題があるということを含めて、まず沓掛校長先生からお話をいただけたらありがたいなと思いますので、よろしくお願いたします。

沓掛校長： 神明小学校校長、沓掛です。よろしくお願いたします。

小学校の学力向上、授業改善の状況についてお話をさせていただきます。今年度のコロナ禍の状況で、学校で学ぶ意味。これについて深く考えさせられました。私たちは、初めて子供がいない学校を経験しました。プリントでしかやり取りができない、そして学習が進められない、こういう状況でございました。6月からは、色々な制約があるものの、順調に学校行事、学習を進めることができました。私は、先生方が子供たちを置き去りにして、教科書を進めることに躍起になってしまうのではないかと心配していたのですが、そんなことはありませんでした。私たちは、ようやく授業ができる喜びの中、またいつ休校になるかわからない。子供たちが学校に来ている、今、何をしなければならぬのか。学校でしか付けられない学力は何かということを考えながら、進めてまいりました。本校は生活科、総合的な学習の時間を中心に研究を進めています。岡谷スタンダードカリキュラムをベースにした岡谷ならではの学習です。今年度は、その活動の決め出しに非常に苦労しました。例年ですと、地域の方々と交流をしたり、子供たちが外へ出て行って活動することができるわけですが、それができない。ですけれども、その制約の中、子供たちはどんな活動ができるのか。どんなことをすれば、この問題が解決できるのかということを考え抜きながら、課題の解決に向かって活動して、力強く学んでおります。

例えば6年3組では、社会科の学習と関連づけまして、中庭に穴を掘りまして竪穴式住居を作りました。それから、1組はSDGsとして、持続可能な社会の学習としまして、炭を作ってみようということで炭を作っています。それから2組は、コロナ禍で働く病院の方々に感謝を込めようということで、千羽鶴を作りました。それを岡谷市民病院に送るといような、それぞれのクラスが本気で、日常社会の現実と向き合いながら、学習に取り組んでいる状況でございます。

このように私たちは、休校を経験することで、子供に学校でつけるべき学力、これを考え直して、授業改善のために、子供が深く学べる課題を何にするべきなのか。子どもの学びを支えるコミュニケーションをどうやったらいいのか、友との関わりをどうやって詰めていくのか。教師はどんな言葉、関係性を評価していけばいいのかなどという自己課題を持って、自分自身の授業改善を進めているところです。このことは、まさに学習指導要領の主体的対話的で深い学びに向かった授業改善と重なっております。これらの学習の成果が今年7月末に行いました全国学力・学習状況調査の結果にも表れています。例えば、目的に応じた取材の進め方を捉える問題。それから目的や意図に応じた文章全体の構成を考え、大きさや数の環境を的確に捉える問題等で結果が出ています。また、

児童質問紙では、最後までやり遂げる喜び。それから、人の役に立つ人間になりたいなどの項目に高い評価が見られました。大づかみに環境を捉え、粘り強く問題を解決できる力がついてきているように感じています。一方、問われている条件に合うように活用すること、これには課題がありました。先ほどお話にありました自分で計画を立てて学習することにも課題があります。日頃の授業から、条件に当てはまるどころはどこか意識できるように指導し、昨日から始まっていますけれども、家庭学習週間を設けまして、自分で学習を進める力をつける取り組みをしているところです。

また、教育委員会からご支援いただきまして算数の補習を行いました。水曜日の放課後、6年生の希望者を対象に6回、補習授業を行い、延べ197名が参加をして、力をつけることができました。6年生はあと残り4か月になりましたので、中学校に向けての仕上がり学習を進めているところです。ご心配いただいております各教科の学習進度につきましては、夏休みの大幅な縮減、それから、先生の効果が大きくありまして、どの学年も学習進度の遅れはございません。このようにそれぞれの小学校で各校の課題に応じて、関連付ける学習に力を入れたり、事実と意見を分けて書けるようにしたり、図を使って説明したりするなどして、学力向上に向けての取り組みを行っているところです。今後の課題としましては、1人1台のICT機器を導入していただくわけですけれども、その研修を進めることが急務となっています。以上で小学校の説明を終わります。

岩本教育長： はい、ありがとうございます。それでは櫻井先生、中学校の状況をお願いいたします。

櫻井校長： 岡谷北部中学校長の櫻井孝と申します。よろしく願いいたします。私からは、中学校の学力向上の取り組みについて、お話をさせていただきます。

1点目は、コロナ禍における学力向上についてであります。皆様ご承知の通り、年度当初行われたコロナ感染防止のための休校措置に伴い、進学を控えた生徒の不安を軽減したり、履修内容の再確認と定着を通して、学力の保障を図るため、教育委員会のご指導とご協力の下、3年生を対象とした補習を現在行っています。本校の例を申し上げますと、朝の部は毎週水曜日30分間、5教科に亘って行っています。放課後は、月に1回90分間。数学と英語の補習を行っております。それぞれ、朝の部は今までのところ、延べの参加者144名。放課後は112名の生徒が参加をしております。この補習を行って、改めて生徒たちが学びたいという意欲が高いなということを確認、再認識させていただきました。生徒たちの思いに応えたいと思っています。また、休校期間中の授業時数の確保が今年度は大きな課題となりました。先ほど小学校の方から説明がございましたが、夏休みを縮減することや、行事を精選することで、授業時数の確保に努めて参りました。具体的に申しますと、3年生の修学旅行は日帰りで行いました。2年生の八ヶ岳登山は中止といたしました。そのほか、本校は地域清掃と地域との関わりを大切にしていますが、そのような行事も今年は見合わせることにしました。文化祭等の内容も精選をいたしました。おかげさまで、現在は授業時数を確保し、例年より進度が若干進んでいる教科もあるぐらいまでに至りました。

2点目は、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、取り組んでいるところであります。1点目。配置していただいているプロジェクターやタブレット等、ICTを効果的に活用し、わかる授業、楽しい授業づくりを進めています。2点目。課題だった思考力、判断力の部分については、生徒がじっくり考える場面を作って、生徒にとって必要感があるグループ学習を取り入れ、生徒同士が関わって学ぶ学習を進めています。学習状況調査の中で、大きな課題があったのは、ゲームやネットの使い方等についての課題でありました。岡谷市の情報教育モラルの年間指導計画に基づいて、生徒への指導はもちろんですが、家庭へも啓発をさせていただいて、家庭との連携を進めていきたいと思っています。

最後になりますが、キャリア教育についてお話をいたします。学ぶことと自分の人生や社会との繋がりを実感しながら、生活や社会の中にある課題の解決に、主体的に生かしていくという学力。これは岡谷市だけではなく全国的に今、問われている課題であります。社会からも一人一人の可能性を引き出して、豊かな人生を実現し、個々のキャリアを形成し、社会の活力につなげていくことが求められています。今、岡谷市の中学校では、キャリア教育に力を入れています。中学生は生き方、働き方を考え、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成する時期であります。自分の興味・関心や適性を理解したり、他者を尊重したコミュニケーション力を高めたり、自分や他者の役割を認識することを目標にして、具体的には、職業や進路学習、地域行事への参加、心を育てる道徳教育、朝読書、命を大切に学習等を進めています。今年度からキャリアパスポートを活用して、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自分は何々ができるようになった。こんな点が成長した等、自己肯定感を高め、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現へ繋げるよ

うにしています。

以上、大きく3点についてご説明申し上げました。以上であります。

岩本教育長： 続いて、花岡先生から学校訪問で授業指導等をしていただいているわけですが、先生方の学力向上への取り組みの様子、あるいは子供たちの授業での様子等を含めて、お話をしていただけたらと思います。お願いいたします。

事務局(花岡)： 授業を参観させていただいて、一番感じることは、先生方の「自分の授業を変えたい」という前向きな思い、そんな思いを感じる事が本当に多くあります。チョーク一本、黒板を背に講義口調の授業ということも、今までなかったわけではないですが、それでは今、求められている主体的対話的で深い学びにはならないということ、それぞれの先生方が深く感じており、自分の授業を何とかしたいと思いながら授業を計画しているところが本当にありがたいなと思いながら、学校訪問させていただくことが、とても楽しくなっています。もちろん、授業を見させていただいた時に、こういうところが良かったねとか、子供のこんなところがとか、そういうことが話題になりますけれども、それ以上に「あの子がこんなことを言ったので、それって次の授業のこんなところに繋がるのではないか。」など、次に繋がっていくような、そういうお話を先生と一緒にできるということ、そんなことは、今までには無かったことかなと思います。

先日は2年生で自分たちの地域探検をしたいということで、計画を立てる時に「自分の地域にはこんな素敵なおところがあるよ。」というのを、まず学級でやって「じゃあ、自分だったらここが自慢だよ。」というところを書いてもらう。という流れだったのですが、そしたら、ある子が「僕の家のお隣にある自動販売機！」と言うんです。ほかの子はそういう発想がなかったのですが、私も担任の先生もそこに参加した先生方も、すごく楽しくて。例えば、自販機に並んでいるものが、自分の家の隣にある自販機にはこういう物が並んでいるけれども、でも町へ行ってみたら全然自販機に並んで種類が違う。何でだろう。そうやって色々な事を考えると自販機一つだって、本当に話が色々なところに繋がってたんですけど、そんな授業を見せていただいた後の授業についての話ができるということも、とても楽しいことです。

それから、今までは「はい。今日やることはこれですよ。」と書くような、そういう授業が多かったのですが、この頃の授業では、必ず子供たちと一緒に学習問題や学習課題、今日の狙いや今日やりたいことを、子供の言葉で繋いでいる姿がとても多くなってきているように思います。そして、先生方が正しい答えだけを求めない、そんなところもちょっと変わってきたかなと思います。

最近、こんな授業がありました。三桁の数字を書くのですが、0の扱いはすごく子供たちには難しく、205は、どうやって数字で表したらいいか。みんなで考えを書くわけですが、そしたら、ある子は205だから書いてみると、2005って書いてしまうんです。そういう子がいたり、様々な子がいたのですが、先生が机間支援をしていった時に「先生、僕、迷っているんだよね。」と言ったのですが、迷っていることを率直に先生に言える、その先生と子供との関係というのが、とても素敵だと思いますし、そういう学級経営をされている先生がとても多くなっています。その時に先生が「迷っているのは何？何と何で迷っているの？」と大きな声で言いながら、それをクラス全体に持って行って、その子が出てきて「これとき、これなんだよ。205なんだけど。200の100の位は2つでわかるし、1の位は5つでわかるんだけど、10の位はどうしたらいいか、迷ってさ…」それに対して、色々な子供たちの考えが出てきて、結果、「25だったら100の位は25だから100の位は何もなくなっちゃうから、おかしいね。」となって。そういう意見を言われると、自分の考えを周りの子供たちの考えによって、修正していくことができる。そして、最後に最初に2005って書いた子が、みんなの授業の流れを聞いていて、そして、「あっ！わかった！」と言って、「分かった！」という自分自身が学びを獲得する。こういうことの繰り返しというのが、実は深い学びということにも繋がってくるかなと思います。そんな授業場面を見せていただいているので、授業改善は、確実に岡谷において進んでいるなと感じています。

それからもうご存知かと思いますが、ICTの活用もどんどん進んでいます。最近では4年生から6年生あたりで、プレゼンを自分で作ってしまうような、そういう堪能なお子さんたちもいます。中学生は自分の考えをみんなに説明するときに、電子黒板の前で電子ペンを持って、「ここがこうでしょ。」とやりながら、「ちょっと待って。こっちは色を塗った方が、みんなわかるよね。」と

のように、どんどん使っているというような姿も見させていただいて、本当にICTもまだまだこれから研修が必要だと思いますけれども、上手く授業に活かしているというようなところも目にすることが多くなったように思います。

そして、先生方が自分の授業を何とか変えたいと思うことになっている。そういうことに寄与していること、私は今、二つぐらい思い当たるのですが、他にもまだあったと思うのですが一つは、やはり岡谷市スタンダードカリキュラムの存在がすごく大きいと思います。スタンダードカリキュラムを通して、カリキュラムマネジメントとはどんなものかということ、先生方が獲得しています。例えばシルクであっても、あっちの先生はシルクを教材にしながらという流れの授業を行い、こっちの先生は違う切り口から授業を行うというような、カリキュラムマネジメントが竹内先生によって、アップしていただいているので、それを目にするによって、「自分だったら、うちのクラスの子供たちとこんなことやりたいな。」という、そういう思い描きもすることができるのは、岡谷スタンダードカリキュラムの存在が大きいです。

それからもう一つは、岡谷には先生方の研修体制がしっかり確立されているということです。その中に、小中学びの連携というのがあって、小学校の先生が中学校の授業を見させていただいたり、中学校の先生が小学校で、小学校の先生の授業を見させていただく。そのような機会があるのですが、これは先生方のご希望で始まったことなのです。もう4年ぐらい続いていると思うのですが、先生方の小中学びの連携に参加することによって、「久しぶりに、この仕事に夢を感じた。」など書いていらっしゃる先生もいますし、それから中学校の先生などは、小学校2年生の授業をほとんど見る機会がないと思いますが、「小学校2年生の授業が本当に新鮮だった。中学生にはない発想ややりとりが見られて、明日からのエネルギーをいただけたような気がします。」というような感想を書かれていたり、「授業の挨拶の時に、当番が自分の係りの感想を発表すること。中学校でもやってみたらどうか。」などの感想がありました。これは、まだまだ小学校でも広がってはいないのですけれども、授業の始めに当番が出てきて「今日はこれから1時間目の授業始めます。」と言うことが多いと思うのですが、その時に「今日はこういうことをみんなでやりたいと思います。」というように、自分がこの1時間にかける願いみたいなことを一言言って、そして「授業を始めます。」という挨拶をしたり、授業の終わりの時にも「今日はこういうことがわかりました。次はこんなことをやりたいと思います。」という一言を添えた挨拶が、少しずつ小学校の方で進み始めているのですが、そんな光景を見た中学校の先生が、中学校でもできないかなという感想を寄せられています。「来年度、中学へ来てくれるのが楽しみです。」というような交流があるのですけれども、その中でお互いに自分の授業を何とかしようっていう思いが高まっていることを感じています。自分自身もそういう授業に、関わらせていただいて、そういう先生方の求めに応じることができるように、また努力してかなきゃいけないなんてこと思っている次第であります。

岩本教育長： はい。ありがとうございます。

それぞれの立場からお話をいただきました。最初にどこからでも結構ですので、この点をもうちょっと知りたいとか、話して欲しいというところがありましたらお願いします。

太田委員： 質問の前に、せっかく沓掛校長先生と櫻井校長先生がお見えなので、改めて一教育委員として、コロナ感染状況の全国の違いということを全く無視して、突然、政府によって全国一斉休校という措置がとられた。その大混乱の中にも関わらず、本当に先生方には学校全体として、非常に努力していただいて、ここまで立派に子供たちにとって、本当に大変に意味のある一年にさせていただいたのではないかなということに、改めて敬意と感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

その上で先ほど沓掛校長先生がおっしゃった非常に今大事なところ、櫻井先生の方からもキャリア教育という点でお話がありましたけど、非常に大事なところ、現状。これからの世の中にとっても非常に大事だといわれている、問われている条件に応じた回答や対応という部分に、ちょっと課題があるのではないかというお話がありましたけれども、ここをもうちょっと詳しく、どんな内容なのかっていうのを教えていただいてもよろしいでしょうか。

沓掛校長： 神明小の全国学力・学習状況調査の結果からという部分をお答えします。

課題ではありますが、国語の課題①ですが、解答条件のすべてを満たすことが出来ずに不正解となる様子が見られ、問われている条件を把握し適切に解答したり、自分の考えを支える理由や事例を

明確にして意見を書いたりする経験が不足していると考えられます。

算数の課題①ですが、図形の構成要素に合わせた説明が不足していたり、誤って書いたりして、回答条件すべてを満たすことが出来ずに不正解になるということで、まだまだ問題の読み取りの力が不足し、問題の題意を把握して的確に答える力がついていないという状況です。そこを今まさにやらなければならないと思っています。

太田委員： はい、ありがとうございます。なぜそんなことを感じたかという竹内先生の最初のご報告もありましたし、それから花岡先生の非常に具体的な授業改善の内容と先生のお気持ちなどのお話をいただいて、私の捉え方としては、全体的にはそういう部分が少しずつ改善をされているのではないかということを感じていたのですが、校長先生のお話だとちょっとそこら辺がまだまだ課題だということと、ちょっと何か自分の中で、整合性が取れないというか、改善はしているけれども、まだまだ大きな課題としてこれからも捉えながらやっていかなければいけない部分という意味合いで捉えさせていただけばいいってことですかね。

岩本教育長： ちょっと補足しますと、今まで例えばテストや問題では、答えオンリーワン。数学なんかそうですよ。オンリーワンを目指して子供たちは回答をしています。ところが、これからは複数回答も当然ある。あるいは、ベスト、ベター、グッド。条件によって、これは正解の範疇。これは不正解の範疇。正解が複数あるというような状況をこれからの時代を生き抜く時に、どう選択していくか。それを求められるということです。問題自体がとても変わってきています。つまり、先生たちが問題を出すときに、子供たちに何を求めるか、どんな力をみたいのかっていうあたりが変わってきていて、まだまだ子供がそこら辺に慣れていない部分が非常にあるのではないかと思います。ですから中学校も期末テストや中間テスト、小学校でもいろいろテストやるわけですが、テスト自体がもっともっと変わって、子供たちがそういうことに慣れていかなければいけないのかなど。そういうのが一つの課題かなと思っています。子供自体は、そういう力ないわけじゃないと思います。子供たちも慣れてくれば、やれると思います。ここはとても大事なところだと思います。

小平委員： コロナ禍の中で先生方が色々な改善の必要性を感じ、休校中の時間を活かして、その時間を持たたというの、すごく良い方向に向かっているなど感じました。今、教育先生がおっしゃられていた算数の捉え方なのですが、やはり今、社会が求めている能力ということが、たまたま息子の就活等もありまして、企業からどんな問題が出されているのかちょっと興味があって、最近、色々調べたのですが、問題の一つにケース問題というのがありまして、フェルミ推定という言葉は私は初めて聞いたのですが、例えば「あなたの住んでいる市町村のテイクアウトコーヒーが1日にどれだけ売れているか。」ということ、30分で計算して、それを論理的に説明しなさいという問題があるのだそうです。例えば、日本の電柱の数は何本ですかと聞かれているようなもので、回答の考え方をどういう条件を基に数を出し出したかということ問われる問題だと思うのですが、正解はやはり一つではないということで、すごく腑に落ちました。先ほど、花岡先生がおっしゃっていた自販機に子供たちが興味を持ったという、その地域によって扱っている商品が違うということへの気づきであるとか、そういうことを分析していく力は、本当に必要だなと思いました。あと、教育長先生の議会答弁ですごいなと思ったのが、生徒数と先生の適正な数字について、色々問答されていたところで、先生もその場でいろんな条件をその場で計算し数字を出していたので、すごいなと思いました。そういう対応力、その条件次第で色々変わってきて、それについては、自分はどう考えて、この数字を出したかということ説明する能力が問われているのだなということで、すごくそういうことが学校の現場でいろいろ活かされているなということを感じました。

高木委員： 今、お話を聴かせていただいて、先生方、この苦しい時代に本当にそれだけでも苦しい日々だったと思うのですが、その中でも原点に立ち戻って、一つ一つ解決をされていって、本当に頭の下がる思いです。先生方がこれだけ授業を変えたいという思いで、普通に授業ができない中で、それでも授業を変えたいという思いで、日々過ごして研鑽を積んでいらっしゃる、そしてその中でも、例えば、小中の連携、そういうものを行いたいと言った時に、それを吸い上げて、それをどんどん推進していけば、岡谷市も本当にありがたいと思いましたし、先生方のご苦労が子供たちにまさに反映されているのだなと感じました。その中で先ほど沓掛先生がおっしゃっていた家庭学習の習慣ですが、それについてももう少しお聴きしたいなと思ったのですが、最初に草間教育委員さんからの質問でありましたけどやっぱり、子供たちが家庭でどんなふうに学習していくかということは、教師が形づけていってあげないと、それはできな

いことだと思うので、その具体的な取り組みとしてもう少しお聞きしたいなと思います。

沓掛校長： 本校、昨日からの家庭学習週間ということで、自分で計画をして家庭学習をしてもらい、それをうちの人に確認のサインをしてもらったり、サポートしていただいたりということを繰り返します。

高木委員： 今日は自分でどこのページをどのように勉強していくか、ということを自分で計画していくのですか。

沓掛校長： 本当に休校中はそれで苦労しました。プリントを課題として出すのですけれども、それがなかなか伝わらないわけです。先生方はどういう言葉を書けば伝わるかということに非常に苦労しまして、回答を見ると全然伝わってないのです。では、次はこういうようにすれば伝わってということで、伝え方を考え、工夫し、それが授業にも活かされています。

岩本教育長： 櫻井先生、中学校では家庭学習の改善といいますか、今はどのような状況ですか。

櫻井校長： 先ほど竹内先生からお話がありましたが、中学校の場合は、英語、数学、国語、1ページを毎日提出などは以前から行われていましたが、ただ、それは家庭学習の習慣づけという意味では、確かに必要だったかもしれませんが、今はどちらかという各教科で、最低限これやって勉強して欲しいという最低限の課題は出しますが、それプラス自分で考えて、自分の弱点だとか、発展的な学習だとか、自分でこのドリルのここをやろうとか、生徒たちは色々な教材を持っていますので、その教材を活用しながら、自分で考えた家庭学習というところで、質の向上といいますか、自分にとって必要なことは何かを考えて学習できるというところを大事にしています。ですから、生徒が毎日やってきた課題を先生たちが見えています。内容を見て、内容的な部分の指導があるし、それを自分の授業に活かし、こういうところは子供たち課題があるなっていうのを、その家庭学習の内容から教師が振り返って授業に活かすとか、そのような、ただ作業的な宿題というではなくて、それを子供たちに返せるような家庭学習を考えています。

高木委員： すいません。続けてお聞きしていいですか。小学校ですと担任の先生に宿題を全部出せば、それで済みますけれど、中学校の場合は、今日はこの教科、今日はこの教科というように教科ごと勉強しているのだと思うのですが、その場合はその教科の先生にそれぞれ提出していくのでしょうか。

櫻井校長： はい。その通りです。

藤森委員： 先ほどから委員の皆さんがおっしゃられておりますけれども、本当にこの1年を振り返ってみるといろんなことがあって、学校にとっても、先ほど沓掛先生が、子供たちがいない学校は初めてだという言葉がありましたけれども、本当に誰も考えていなかったような事態の中で、また、片やICTという、また新しい教育のツールがいきなり現場に入ってくるというようなそんな状況の中で、ここまで本当に子供たちの学力の向上や授業の改善にご尽力いただいたことに敬意を表したいと思います。また先ほど、花岡先生からの報告の中でも、先生方からこの仕事やって夢を感じたみたいなきっかけがあったことを聞いて、本当にありがたいなという嬉しいなといいますか、先生たちがどんな仕事もそうだと思いますけれども、やはり自分たちの仕事に夢とか誇りとか自信、情熱を持って取り組んでくださるということが、すごく大事だと思いますし、そういった環境を、外側から作っていただいている岡谷市の体制というのも本当にありがたいなと思いました。

その中で学校の話とか子供たちの話っていうところが今日は主だと思うのですが、先ほどの家庭学習の話とも関連するのですが、やはり家庭との関わり合いというのも、特に今年みたいに、こういう状況になってくるとすごく大事な部分だったと感じています。今日の資料の中で、各校の結果ですが、この学力調査の結果を踏まえて、これは客観的な意見という形で見て、これは結構、学校によって特色があるのかなという印象を受けています。お伝えしたい内容や気持ちとか、各校で同じだと思いますが、資料として見た時に少しビジュアル的に、やはり保護者の皆さん、すごく不安だと思います。学校が休校であったり、子供たち学習は今どうなっているのだろうかとか、ということの中で、それを短い限られた文章の中で伝えていくところは、非常に工夫が必要なところであるし、ご苦労があるかなというように思うのですが、そういったところも、これは別にどこがどうという話じゃなくて、全体的な話として、ま

たより一層確認していただきながら、分かりやすいものにしていただけると、なお良いのかなというようなことをちょっと感じます。

校長先生方お2人いらっしゃるのですが、こういう状況の中で、色んな取り組みをされていて、こういうところが課題であるというのは、文章的なところでは情報発信されていると思うのですが、それ以外の部分とかで、家庭の保護者の皆さんと学校とのコミュニケーションなど、何かその辺で、特に今年のこういう状況の中で工夫されていることとか、こんなことやっていますよというようなことがもしあったら、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

沓掛校長： 休校中は、寧ろ例年より子供たち1人1人と会話をしました。保護者とも1人1人電話したりしました。普通の年ですと課題があるお子さんなどに集中するわけですけど、本当に全員くまなく、コミュニケーションが取れるということは、良かった点だと思います。そのことで関係づくりができていますので、その後も困った時には、ご連絡をいただいたり、学校の新型コロナに対する対応につきましても、必ず通知を出す。行事はこのようにやるけれども、ご心配なご家庭があれば、ぜひご相談くださいということで、色々な行事等でお願いをいたしました。

櫻井校長： 中学校の現場の話ですが、保護者の方々が一番感じておられるのは、安全・安心の部分かなというように思っています。これから受験期を迎え、例えば3年生の高校への体験など、色んな事が行われています。それが無事に済んでいくように、自分が自己実現できるようにということで、安全・安心の部分保護者の皆様はとも考えていらっしゃると思っています。ですから学校としては、毎日体温を計ってもらって、健康チェックなどの部分をご家庭と一緒にやっていただいている、大変ありがたいなと思っています。

一方、こういう状況下ですので、私の耳に入ってきたのは、例えば、部活動の大会なども、無観客で新人戦などが行われました。見せてください。努力しますので、何とか見せてください。というようなお声もお聞きしましたが、これは全県の統一ということでやっていますので、そういった部分で、保護者の皆様がお自分のお子さんの様子を知る、直に見るといふ部分が、今年は足りてないなというように思っています。学校の授業参観等も実際にはやっていますが、密を防ぐために、1日に限定するのではなくて1週間開放しますので、お時間ある時にという形ではやっているのですが、なかなか例年と様子が違いまして、保護者の方が自分のお子さんの様子を把握するっていう部分では、まだまだ課題があるかなと思っています。

藤森委員： 本当に学校現場では、大変なご苦労が多々あるのではないかと、推察をしているところです。今、沓掛校長先生が、例年よりも保護者の皆さんと、より密にコミュニケーションをとる機会が増えていくということですけど、本当に大変なことだなと思いつつも、ある意味、ピンチはチャンスではないですけど、本当にそういった意味では普段は聴けない保護者の声とか、家庭の様子なども、情報として聴けるチャンスということも、外部からの人間の無責任な言い方してしまって、本当に申し訳ないかもしれないのですが、ぜひそういった機会を前向きに活かしていただいて、より良い学校づくりにこれからもぜひ、ご尽力いただくと本当にありがたいなというように感じます。

草間職務代理者： 先生方には、休校中また今まで経験のない中での補習等、大変苦労していただいて、子供たちも、今、毎日元気に学校へ通っております。やはり私が一番思うのは、学校と家庭の関係だと思っています。今日、この資料を拝見させていただいて、沓掛先生の神明小学校が、文末に唯一、問い合わせ先が載っているんです。私はこれを見て、校長先生の心意気というか、藤森委員さんもおっしゃったのですけれども、やはりこういう時こそ、学校と家庭のコミュニケーションが大事だと思います。学校の責任というか、学校は子供をしっかり見ているよ。というのが、この問い合わせ先一行の中に出ていると思います。ですから、これからこういう不安な状況の中で、保護者の方が安心できるというのは、担任の先生はもちろん一生懸命やってくれていますけど、学校としての責任と子供の指導をしていくというのが、この一言に出ていると思います。ですから、ぜひ岡谷の学校はこういうように、校長先生、教頭先生も、子供たち一人一人を見えています。担任の先生もしっかり見えていますよ、というのを何らかの形でアピールできるように。そしてこの一行から家庭と学校の結びつきというのを深く感じました。

岩本教育長： できれば1日ずっとこの話をしたいのですが、そういう訳にもいきませんので。3人の先生から具体的なお話をお聞きして、私も大変頑張っている様子が窺い知れて本当に嬉しく思

っております。草間さんからもお話がありましたけど、その頑張っている様子をしっかりとお伝えする。これもとても大事なことだなと思えました。ぜひ、発信力を磨きながら、頑張っている様子をお伝えしていただき、そして一緒になって、子供たちの学力向上を頑張っていくと、そういうことかなと思います。今日は本当にいいお話をさせていただいてありがとうございました。それでは3人の先生方、ありがとうございます。

以上で議題1は終了とさせていただきます。

(杏掛校長、櫻井校長、花岡アドバイザー退席)

2. 市立岡谷美術考古館条例施行規則の一部改正について (生涯学習課)

岩本教育長： 議題2について、事務局より説明をお願いします。

<事務局から市立岡谷美術考古館条例施行規則の一部改正について説明。>

事務局(山田)： 市立岡谷美術考古館条例施行規則の一部改正ですが、こちらにつきましては、市立岡谷美術考古館の開館時間を令和3年4月1日から変更するために、市立岡谷美術考古館条例施行規則の改正を行うものでございます。内容につきましては、開館時間を定めております施行規則第2条につきまして、令和3年4月1日から、現在の午前10時から午後7時までを午前10時から午後6時までとすることで、閉館時間を午後6時にするという変更であります。こちらの変更に至った経過といたしましては、美術考古館の開館時間については、平成25年11月に美術考古館が童画館通りに移転する際、童画館通り商業会から各店舗の営業時間に合わせた時間帯にして欲しいという要望を踏まえまして、午前10時から午後7時までに設定をしまして、これまで7年間運営をしてきたところです。しかしながら、午後6時以降の入館者が少なく、閉館時間の変更について、数年前から検討事項の一つとしておりました。今年度に入りまして、このコロナ禍における施設運営の見直し、また、童画館通りの人の流れ、そういったものを見る中で、9月に童画館通り商業会の役員さんたちとお話し合いをさせていただきました。話をすることで閉館時間を午後6時にすることにご理解をいただいたところでございます。童画館通り商業会からは、防犯上、閉館後もしばらくは照明等を点けて明るさを確保して欲しいという要望がありましたので、教育委員会といたしましても、照明灯の設置等で明るさを確保したいと考えています。閉館時間は1時間早くなりますけれども、サービス、また企画展等を低下させることなく、今後も効率的な館の運営、魅力ある展示、芸術文化の発信に心がけて、まちの活性化に繋げていけるように取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

岩本教育長： それでは委員さんから、何かご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

太田委員： ご説明、よく理解できました。全く反対するつもりではなくて、これは結構だと思いますが、それぞれの施設に開館と閉館の時間があると思いますが、開閉館時間の変更の際に、規則まで改正しないといけないような設定になっていること自体が、私自身あまり理解ができなくて、開閉館の時間ぐらいいは季節による違いもありますし、社会の変化など、色んな事情があるので、その中でも相談をしながら、多少、臨機応変に変えられても良いのではないかなというように思うのですが、なぜ規則にそこまできっちり書かれて規則改正という手続きをとらなければならないのか、ちょっと疑問に思いましたので、教えてください。

事務局(山田)： 美術考古館は規則ですので、まだこちらの決裁だけで済みますが、条例に開閉館時間を謳っている施設もあります。どちらしても、開ける時間と閉める時間というのは示していかなければいけないので、例えば、ちょうど今回の議会ではイルフ童画館も時間を変更するということで、イルフ童画館は条例に載っているので議会の議決が必要になるため、今回、議案が上がっています。イルフ童画館が以前、午前9時から午後6時で開館していたのですが、美術考古館が現在の場所に移転する際に、美術考古館と開館時間を合わせたという経過がありまして、午前10時から午後7時の開館で、今、運用しているのですが、それを元に戻して午前9時から午後6時まで開館という条例改正を今回提出します。余談となりますが、イルフ童画館は子供たちの連携をこれからもっと図っていきたいということで、早めの時間帯に設定をして保育園

や学校が利用しやすい時間帯となります。ですから太田委員さんからお話のあった市の施設はすべて条例または規則で開館時間、閉館時間を定めております。ですが、童画館通りでイベントがあって遅くまで開館するという時はそれぞれ決裁を取って、一時的に今日は何時まで開館しますというような場合は、規則の改正ともしなくても、今も対応しておりますし、現在の新型コロナウイルスの関係で、実際、今は午前9時から午後5時というような運用させていただいておりますが、それは一時的なものですのでこういった規則改正をしないで、決裁の範囲で実施しておりますので、こういった規則に謳っている以上はきちんと改正をしていかなければいけないということでご理解いただければと思います。

太田委員： はい。わかりました。大変なのですね。

岩本教育長： 公的な施設は、大勢の市民の皆さんに周知徹底を図っていただければいけないということで、議会や、あるいはこういう場でしっかりと説明をして、その上で決定していく必要があります。それでも、その時の状況に応じて時間をちょっと延長するなど、そういったことはもう当然のように適宜対応させていただいております。

藤森委員： 今は新型コロナウイルスの影響で午後5時までとのことですが、午後7時まで営業していた時は、午後7時までの時間帯の利用状況は、実際に少人数しか入館しないという状況なのでしょうか。

事務局(山田)： 平成28年度から令和元年の過去4年間ですと、約0.8%になりますので、4年間で約4万5000人入館したうち、370人程度です。令和元年ですと1万1900人ぐらいが入っていますが、午後6時から午後7時の人数ですと31人です。本当に少ないです。夜に入館したお客さんはキツネ祭りや夜間にイベントをやっている時に、例えばトイレ貸してくださいという方もいまして、利用者数は少ないです。

藤森委員： 年代層はわかりますか。

事務局(山田)： やはり、お祭りに来ている家族連れが多いと思います。イベントに参加するという年代層なので、あまり普段利用しない人たちかなというように思いました。

藤森委員： そういう状態であれば、人がいないのに開館しているのももったいないと思いますけど、生涯学習という観点からすると、平日に仕事が終わってから美術館へ行くという大人がどれくらいいるかというのは、わかりませんが、少し積極的に考えるのであれば、そういう層を掘り起こすような企画を考えたり、ちょっと仕事帰りに、文化の香り高く美術館へ寄って帰ろうかな、ということも今後、色々考えていただきながら、先ほどお話に出ているように、規則で開館時間を決めるのは市の施設ですから結構ですので、フレキシブルに何かこういうことをやりたいのだけど、少し営業時間を延ばしてというのはいいと思いますので、そんなことも考えていただければよろしいのではないかと思います。

高木委員： イルフ童画館を学校との連携ということで時間を元に戻すということですが、美術考古館も学校との連携ということがありますので、午前10時から開館ですが、お願いすれば午前9時から開けていただくこともできますか。

事務局(山田)： 当然そういった対応をさせていただくことも出来ますし、その方が一般のお客様は午前10時から開館という認識をされているので、午前9時からですとゆっくり見ることが出来ますので、そこは柔軟に対応させていただきたいと思います。

高木委員： 学校の先生方にそういうことをお知らせして、使っていただければと思います。

事務局(山田)： そういった面も合わせて、イルフ童画館もここでちょうど程度、月曜日に議決になってきますので、そういったところを合わせて双方でPRをしていきたいなと思っています。

岩本教育長： 先日、図書館もお休みの日に、学校の子供たちが勉強したいということで、解放してゆっくり、しっかりとやっていただいて、とても子供たちが喜んでいました。そういう融通性というのは、しっかり持って対応しています。

小平委員： 今は講座の定員いっぱいに参加者がいるのですか。

事務局(山田)： 今は定員数を絞っているのですが、ほぼワークショップは定員いっぱいになります。特に館長のワークショップは本当に魅力的なものが多くて、教え方もやはり上手ですから、リピーターでどんどん来る方もいらっしゃいます。近くにカルチャーセンターがあるので、美術考古館を閉めていても、カルチャーセンターを使って、ワークショップは出来ますので、そういった連携を図っていけるのかなと思います。先ほど藤森委員さんもおっしゃいましたが、例えば1週間、

夜だけ開館しますというのもありかなと思っていますので、そういったところもまた魅力づくりの中の一環で考えていきたいと思っています。

小 平 委 員： 企画次第でいろいろフレキシブルにというのは、とても良いかと思えます。私の知っている範囲だとガラスの里などは、今は土日営業だけになっているようで、やはり一日中開館している、電気を点けているだけで相当の経費が掛かるというようにお聞きしました。あと、要望に応じて修学旅行の団体を平日に特別その団体のみ利用するという使い方をされているとお聞きしたので、先ほどの学校がのびのびと図書館を使っているというような、限定した団体だけをこの時間入れるっていうのも、とても良い使い方かもしれないですね。

岩 本 教 育 長： はい。いろいろなお質問ご意見いただきましてありがとうございます。それでこの件につきましては、教育委員会として承認することによってよろしいでしょうか。

＜市立岡谷美術考古館条例施行規則の一部改正について、委員全員から承認される。＞

岩 本 教 育 長： はい、ありがとうございます。例えば教育委員会として承認することといたします。本日の議題は以上でございます。引き続き報告事項に入りたいと思います。

○報 告

1. 新型コロナウイルスの対応について（教育総務課）

岩 本 教 育 長： 報告事項1について事務局より説明をお願いします。

＜事務局（城田）から新型コロナウイルスの対応について説明。＞

岩 本 教 育 長： ただ今の内容について、質問や意見はありますか。

高 木 委 員： 徐々に寒くなってきて、換気を行う度に非常に寒い思いをしているのですが、学校で1日中換気をしていたら、本当に子供たちも寒くて大変だと思うのですが、冬期間の換気はどのように行うのでしょうか。

事務局(両角)： この新しいマニュアルの夏の間は教室の窓を開けて、常時換気というのはあったのですが、冬期間は寒いので二段階換気の実施方法をマニュアルに記載しております。例えば使っている教室の窓を直接開けるのではなくて、一つ隣の空き教室があれば、そちらの窓を開けて、廊下を通して空気を循環させて換気をすることでも良いということが示されましたので、直接窓を開けなくても換気が行えますし、休み時間に換気し、授業中は30分ぐらいを目安に喚起を行うというようになってはいますが、そのぐらいを目安に、あまり寒くならないように換気を行います。

高 木 委 員： 新型コロナに注意するのは良いことですが、他の病気を呼び込むようなことがあってはいけませんので。

岩 本 教 育 長： 他市では、学校の先生が感染してしまったということで、その教育委員会でも大変な思いをして、感染拡大防止対策をしていると思います。こちらもいつ感染が広まるかわかりませんが、先ほど部長が言われように、緊張感を持って私たちもすぐ対応できるように準備をしているところであります。またお気づきの点あったら、お伝えをいただけたらと思います。よろしくお願ひします。

それでは報告事項2に移りたいと思います。

2. 令和3年岡谷市成人式について（生涯学習課）

岩 本 教 育 長： 報告事項2について事務局より説明をお願いします。

＜事務局（山田）から令和3年岡谷市成人式について説明。＞

事務局(山田)： 委員の皆様方には、本当にご心配をいただいているところではありますが、今のところ、成人式を令和3年1月10日（日）に開催する予定で、現在準備を進めております。今年の該当者は569名になりますが、11月4日に通知を発送しまして、参加申込が12月10日時点で402名、70.7%となっており、例年と同じぐらいの申し込みがされています。新年の始まりでの皆さん、大変お忙しいところ大変恐縮ではございますが、新型コロナウイルス感染症

予防対策を十分に講じて、安全・安心な開催に努めて参りますので、色々ご都合があろうかと思えます。都合のつく範囲で結構ですので、ご臨席いただければというように考えております。

それでは、まず当日の動きについてであります。当日は午後1時30分から受け付けを開始し、アトラクションは行わず、午後2時から式典を始めまして、式典終了後に記念撮影を行って終了する予定であります。委員の皆様には、図の通り、来賓受付場所で受け付けをしていただきます。グランドロビー向かって左側の手前になります。その後、楽屋で待っていただいて登壇をしていただく流れとなっております。例年、少し早めにとりようなご案内をさせていただいておりますが、こういう状況ですので、できるだけ皆さんが集まる時間が少ない方がよいのかなと思っておりますので、本当にぎりぎり構いませんので、1時45分までにお越しいただければと思っております。教育委員の皆様には、例年同様、記念式典が終わったところでお帰りいただいて結構です。記念撮影につきましては例年、区ごとに撮影をしておりましたが、それもやはり待機する時間を少なくしたいという思いから、小学校区ということで、当時は岡谷小学校がまだあった時代ですので、8回の記念撮影ということで考えております。来賓につきましては、市議会議員、県議員の皆さん、社会教育委員、青少年団体の長、そういった皆様には感染拡大防止の観点から、今回は招待を休止する旨のご案内をさせていただいております。

当日の対応としまして、前にも少しお話ししましたが、入口にサーモグラフィカメラの設置、マスク着用の確認、アルコール消毒、そういったものは当然行いますし、新成人につきましては、通知の中にも記載しておりますが、2週間以内の健康確認をしっかりとさせていただいて、当日の参加表にチェックをつけていただくような形をお願いをしているところであります。

いずれにしても、新成人だけでなく、来賓の皆様、そういった参加者全員の安全を最優先に成人式を実施していきたいと思っておりますが、今こういう状況でございますので、今後の全国的な状況、また近隣市町村の動向、こちらに留意しまして、大幅な変更あるいは中止等々も考えられますので、そういった場合には改めてご案内をさせていただきたいと思っております。

藤森委員： 進行表の中で国家・市歌は演奏で、市民憲章は朗読ですから、全体で斉唱とかみんなで唱和ではなくということによろしいわけですね。

事務局(山田)： 基本的には記念撮影以外はマスク着用ということで徹底したいと思っております。謝辞の時も、例年、市長さんが対面になってやっているのですが、市長さんには席にいらしていただいて、謝辞は正面を向いてやるように密になるようなことは避けたいと考えております。ただ、これもまた理事者と打ち合わせして最終的に決定しますが、できるだけ安全ということを最優先に考えています。

太田委員： 旅行が容認されている状況の中で、成人式の開催が駄目ということだけは絶対したくないなと思っておりますので、ぜひ安全に留意してということだと思いますが、式自体は座席も一つずつだけで400人ですから、収容人数が1500人なら、しっかりと間隔をとって座ってもらえると思います。始まってから終了までの間はかなり対策を取られていると思いますけど、例年、成人式に来てくれる子供たちというのは、やっぱり久しぶりの再開というのは、どうしても嬉しくて当然だと思うのですが、受付でいつも始まる前に、集まって密になる状況が発生することと、式典が終わってからも当然、ロビーから外で集まるという状況に、どこまで対策を取れるのかわからないのですが、式典の前後が一番のリスクが高まると思うので、どこまで教育委員会として、その辺はどのように対応されるのでしょうか。

事務局(山田)： 実は今やっている議会でも吉田博議員さんから成人式の質問がされまして、昨年、議員として出席されて、やはりロビーが心配だという話をいただいております。今、考えているのは、受付場所は小学校区で受付をしていきます。入口を、ここの小学校はここ、ここの小学校はここ、というように、カノラホールは何箇所か入口がありますので、動線を分けようと思っております。受付したらすぐにホール内に入るように職員で促していくように考えています。座席も小学校区ごとにある程度まとめて座っていただきます。400人でも、一席おきでも座れるのですが、午前中に消防が出初め式を同じ会場で行うのですが、消防は一席おきの1列飛ばしで考えているそうなので、座ってはいけない座席に印をおくそうなので、消防が終わった後、私たちがそれを全部そっくり入れ替えることがなかなか時間的に難しいので、できるだけそれを活かしながら400人を入場させるのは、ちょっと1階だけでは厳しい可能性もありますので、

そのところは、2階席を使用するなど再検討させていただいております。一席ずつ空ければ十分座れますし、1500人収容で3分の1に絞ったとしても、500席ですので400席というのは、余裕があると思っております。各区の役員さんも、今回は区から1人ということでお願いをしています。受付も市の職員の方で対応するようなことを考えております。写真撮影は当然、撮影を待っている時間ができてしまうのですが、写真はいつも撮影が終わると、そこで解散という形になって、留まってしまうのですが、今年は写真を撮り終わったら、裏側の出口と表の出口から外へ出てもらおうと考えています。ロビーからも出てもらって、外へ促す予定で考えています。あとの集まりという部分ですが、やはり吉田議員さんもそれを心配されておまして、ぜひ呼びかけはしてもらいたいと。こういった時だから、自分たちの安全をしっかりと考えた行動をとってくださいということは呼びかけるつもりでいます。ただ当然、規制するわけにもいかない部分ですので、そういったところは、主催者としては、その部分についても責任ある行動をとってくださいねというところは促していきたいと考えているところでもあります。

太田委員： もう案内状を出して出席をとっているのですが、例えば、かなり短縮でやるような形、4中学校、高校2つずつに分けて二部制にするとかそういうことはもうできないということですよ。

事務局(山田)： そうですね。一応、ここで最終確認したところで、もう一度出席者には、案内を出す予定でいます。そこには、先ほど言ったようなこともコメントしながら、最後の通知を出して参りたいというふうに考えております。

岩本教育長： 心のこもった成人式をやりたいというのはもちろんですが、それと同時にやっぱり、参加される成人の皆さんの健康や安全も守らなければならないし、同時に市民の皆さんの健康も守っていかなければならないです。非常に難しい判断がまたこれから出てくるのではないかと思います。とにかく決断をしなければいけないので、これは教育委員会の主催ではなくて、市と教育委員会の共催という形でやっていくものですので、当然、理事者としてしっかりと連携をして、そのところは共通理解の基で判断するということになるのかなと思います。いずれにしても、教育委員の皆さんも主催者の1人ということになりますので、そんな視点からまたご意見等ありましたら、よろしく願います。

報告事項は以上となります。次にその他ということで、事務局から願います。

○その他

- ・行事等について (各課)

<各課より行事予定について説明>

- ・その他

岩本教育長： そのほか教育委員さんの方からなにかあれば、お願いいたします。

ほかに無いようでしたら、事務局より次回の開催予定について願います。

<次回開催日確認>

岩本教育長： それでは以上をもちまして、12月の定例教育委員会を終了とします。

午前11時35分終了

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

令和 3年 1月 8日

教 育 長

志本 博行

署 名 委 員

小 平 陽子

署 名 委 員

草 間 吉幸

調 製 職 員

城 田 守